令和5年度 発達障害のある児童生徒等に対する支援事業 個別の教育支援計画などを活用した継続した指導実践創出のための調査研究事業成果報告書

全国特別支援教育推進連盟

目的及び目標

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒の指導において、個別の教育支援計画などを活用し、継続的な指導実践を行うため、好事例を収集し、事例集として作成し、普及を図る

- ① 情報の引継ぎ状況に関する実施状況調査
- ② 個別の教育支援計画などを活用した情報の引継ぎに関する取組実践についての事例収集、優良な事例集等の作成

実践研究企画会議

構成：大学関係研究者、学校関係者、医療関係者、福祉関係者、保護者、企業関係者、全国特別支援教育推進連盟等

第1回（7月21日）：事業の全体計画、アンケート①の検討

第2回（10月17日）：アンケート結果の分析、アンケート②の検討、実践事例の選定、訪問調査の実施内容及び計画

第3回（12月14日）：指導実践の在り方及び事例集の検討、編集

実施責任者、事務局

5～9月

アンケート①

対象：都道府県、指定都市教育委員会

目的：教育委員会の取組状況の把握

内容：実施状況の把握（資料、様式等の作成状況、研修の状況）、優れた実践の把握

9～10月

アンケート①の調査結果から優れた実践をしている教育委員会及び学校を対象に、さらに具体的な内容についてアンケート②を実施

12～2月

アンケート調査結果から個別の教育支援計画などを活用した継続した指導実践の検討
優れた実践をしている教育委員会、学校における具体的な実践事例集を作成

3月

報告書（実践事例集）の配布、ホームページ掲載により成果を広く周知する

成果と課題

- ・教育委員会調査から優れた事例をまとめ事例集を作成し、報告書として各関係機関に配布した。
- ・児童生徒の多様化を踏まえ、障害理解の推進と共生社会の実現、デジタル化の推進などのこれからの社会における障害のある児童生徒の指導については多面的な検討が必要である。